

多発性骨髄腫 | Disease Landscape & Forecast

2015年12月発刊

2014年の多発性骨髄腫市場は、収益が同レベルの他癌市場より罹患率が比較的低いにも拘わらず目覚ましい売上を上げた。過去10年間で顕著な治療成果と有効的な高額薬剤の上市により、2024年まで市場拡大が推進される。しかしこれら進展にも拘らず、予後と全生存期間を既存薬より改善できる薬剤に未開拓の市場ポテンシャルが依然として残る。

報告書は、既存・将来の薬剤ターゲットを説明付ける病因や病態生理学、疫学、既存・新規治療法の評価、未充足ニーズ、七大医薬品市場における多発性骨髄腫市場の10年間の展望について論じます。

調査におけるキーポイント

- 画期的なHDAC阻害剤panobinostat（Novartis社のFarydak）が2015年に米国、欧州、日本で承認された。今後10年間でどの程度の売上が見込めるか？オピオイドリーダー医師は本薬剤と一般的なHDAC阻害剤をどう考えるか？
- lenalidomide（Celgene社のRevlimid）が2015年に米国と欧州で、新規症例の移植適応及び移植不適応の患者での使用に適応症が拡大された。これら地域における新規症例で、この適応症拡大による患者シェアと売上への影響はどの程度か？
- 市場の年間成長は2024年まで堅調と予測される。どの治療ラインが最も成長するか？どのような市場情勢がJanssen/武田社のVelcade、Celgene社のPomalyst/ImnovidとRevlimid、Amgen/Onyx Pharmaceuticals/小野社のKyprolisの売上に影響するか？市場が成長から抑制へ切替わる転換点はいつと予測されるか？
- 主な既存薬4品目の商業的成功を再現すべく臨床開発が活発に進行する。daratumumab、elotuzumab、ixazomibは治療アルゴリズムで

Velcade、Revlimid、Pomalyst/Imnovid、Kyprolis に取って代わるか？
既存薬と比較しこれら新規薬剤の利点は何か？プロテアソーム阻害剤と
細胞表面に作用する標的薬のみが有望な開発中の薬剤クラスか？

報告書の調査範囲

- 対象国：** アメリカ、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、イギリス、日本
- 調査方法：** 血液腫瘍専門医への詳細なインタビュー及び多数の文献調査と、年間 78 人以上の患者を治療する医師へのサーベイに基づき、弊社専門分野アナリストが分析・洞察します。
- 疫学：** 多発性骨髄腫罹患患者数
意義不明の単クローン性ガンマグロブリン血症（MGUS）罹患患者数
- 患者セグメント：** 一次（移植の適応、不適応）、二次、三次、四次治療
- 治療薬の評価：** フェーズ II（11 品目）、フェーズ III（4 品目）、承認済（3 品目）。市場に影響を及ぼすと思われるフェーズ I（7 品目）を含みます。

Pages:	Tables:	Figures:	Citations:	Drugs:	Interviews:22
156	58	46	92	35	Surveys:30